

「ひとつの純真」

桜の花が満開を迎える4月です。阪神さくら地区の記念すべき 10 周年の年度がはじまります。みんなでそのはじまりを祝い盛り上げたいところですが、社会環境の影響を受けていることはみなさんご存じの通りです。

不要不急の外出、いわゆる三密といわれる場所の回避など、私たち自身が主体となって感染拡大を防ぐことが求められています。国に誠を尽くすという意味でも責任ある行動をとりたいものです。

さりとして、自粛ムード一色でスカウティングの火が消えてしまうことも避けなければなりません。各団各隊におきまして、家庭で取り組むプログラムや、感染予防に十分に策を講じた上でなされた活動、そもそも野外においては感染のリスクは低いと判断した上での活動を実践されたようです。一方、団内の協議の結果で活動を見合わせている団もあるかと思えます。どうであれ各団が話し合い考えたことは決して無駄になりません。以前、「組織」を守ることにだけには陥らないでほしい、「運動」を守ることを考えてほしいと申しました。それは単に、世間の非難を避けて、あるいは日連が自粛せよ(注:日連は 100%自粛せよとは言及していませんが)といっているからと安易に自粛するのと、スカウトのために何が一番良いのか、私たちの使命は何かを協議して考え抜いた末に自粛するのでは同じ結論でも天地の差があるという意味でした。今後も団や隊においては「運動」を守るということを共通認識していただいて、社会の情勢を観察し、野外活動の利点を考慮しながら「自治の力」を発揮して対応していただきたいと存じます。またいつでも身近なコミッショナーに相談してください。火を絶やさないように一緒にがんばりましょう。

さて、なかなか本来の活動に戻ることができずに悔しい思いをしているというのがみなさんの本音でしょう。私も同じ思いです。この問題は長期化することも予想されます。ここで私からの提案ですが、この機会に今更ながら改めて B-P の思いに近づいてみませんか。ボーイやベンチャーには「スカウティング・フォア・ボーイズ」をじっくり読むよう、カブには「ジャングルブック」(注:できれば「足がら山物がたり」も言いたいところですが、残念ながら絶版です。ただしネットの世界では読むことができるようです)を読むように勧めてはいかがでしょうか。当然ながらローバーは「ローバーリング・トゥ・サクセス」を。ビーバーについては私は勧める本が思いつきませんが、それはビーバー指導者の皆さんのほうがよくご存じでしょう。その際に、どう読むのかの追跡サインは示してあげてください。そして指導者はぜひ「隊

長の手引き」を一度お読みください。私ももう一度本棚から引っ張り出してきました。スカウトも指導者もじっくりとスカウティングへの思いを熱く育むことができればこれもいい機会だと私は考えています。

京の都には疫病のあとに祇園祭が生まれました。奈良の都では疫病のあとに大仏が生まれました。何か形ある物を残すことはできませんが、このコロナウイルス問題を経験したことにより、かえって何かを心に刻み熱い思いを育むことができれば、それがコロナウイルスに完全勝利したという証になるのではないのでしょうか。感染を防ぐという消極的な目的にとどまらず、積極的な目的を定めようではありませんか。

今夜テレビの報道番組をみておりますと、コメンテーターの方が国難に臨んでの後藤新平の言葉を紹介されていました。

「百の学問、千の経験よりも、ひとつの純真」

総長の言葉に私ごときが付け加えて恐縮ですが、百の学問も、千の経験も、ひとつの純真に昇華されるべきであります。確かに今は困難な時ですが、阪神さくら地区 10 周年の記念すべき一年を、みんなの熱い思いを結集、昇華し「ひとつの純真」を示して雄々しく歩んでまいりましょう！！

さあ！やるぞ！！

阪神さくら地区
コミッショナー 山本浩介